



2021年10月期 第1四半期決算説明資料

株式会社オハラ(証券コード:5218)

Mar.12th.2021



CONTENTS

1 2021年10月期 1Q決算の概況

- 業績のポイント
- 業績サマリー
- 光事業
- エレクトロニクス事業
- 営業損益増減要因

2 2021年10月期 業績見通し

- 上期見通しサマリー(3月12日修正)
- 通期見通しサマリー
- 21/10期業績予想修正のまとめ
- 光事業見通しのポイント
- 光事業見通し
- エレクトロニクス事業見通しのポイント
- エレクトロニクス事業見通し
- 設備投資、減価償却費、研究開発費

2021年10月期 1Q決算の概況

売上高は光学ガラスや極低膨張ガラスの販売増加等により増収、損益は稼働率の上昇や減価償却費の減少などにより改善

外部環境

- デジタルカメラ市場は、コロナの影響で減少した需要の反動から、緩やかな持ち直しがみられる
- 露光装置市場は、半導体向け、FPD向けともに堅調に推移

当社業績

- 売上高は、デジタルカメラ向け光学ガラスの需要増加やFPD向け極低膨張ガラスの需要増により増収
- 営業損益は稼働率の上昇、減価償却費や研究開発費の減少などにより改善

セグメント利益の

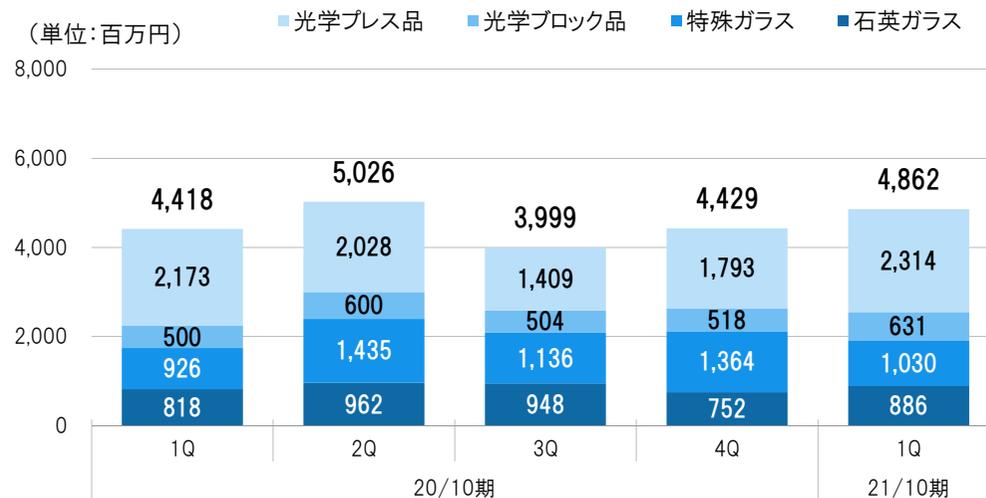
測定方法変更

- 21/10期1Qより、新基幹システムの稼働に伴い一部の費用の配賦方法を変更
20/10期のセグメント利益は変更後の測定方法により記載
- 前年通期のセグメント利益への影響額は光事業が2千2百万円の増加、エレクトロニクス事業が2千2百万円の減少
前1Qの影響額は光事業が3百万円の減少、エレクトロニクス事業が3百万円の増加

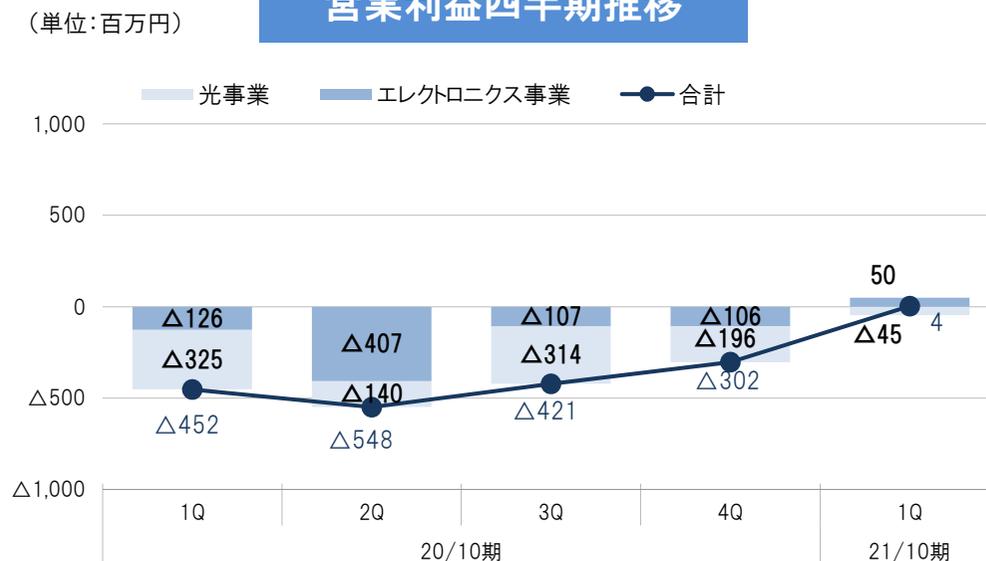
(単位:百万円、%)

	20/10期 1Q	21/10期 1Q	増減 増減率
売上高	4,418	4,862	444 10.1%
営業利益	△452	4	456
[営業利益率]	△10.2%	0.1%	—
経常利益	△470	98	568
[経常利益率]	△10.6%	2.0%	—
純利益 (親会社株主に帰属)	△638	△39	598
[純利益率]	△14.5%	△0.8%	—
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 109.17 120.97	期中平均 103.98 125.36	

売上高四半期推移



営業利益四半期推移



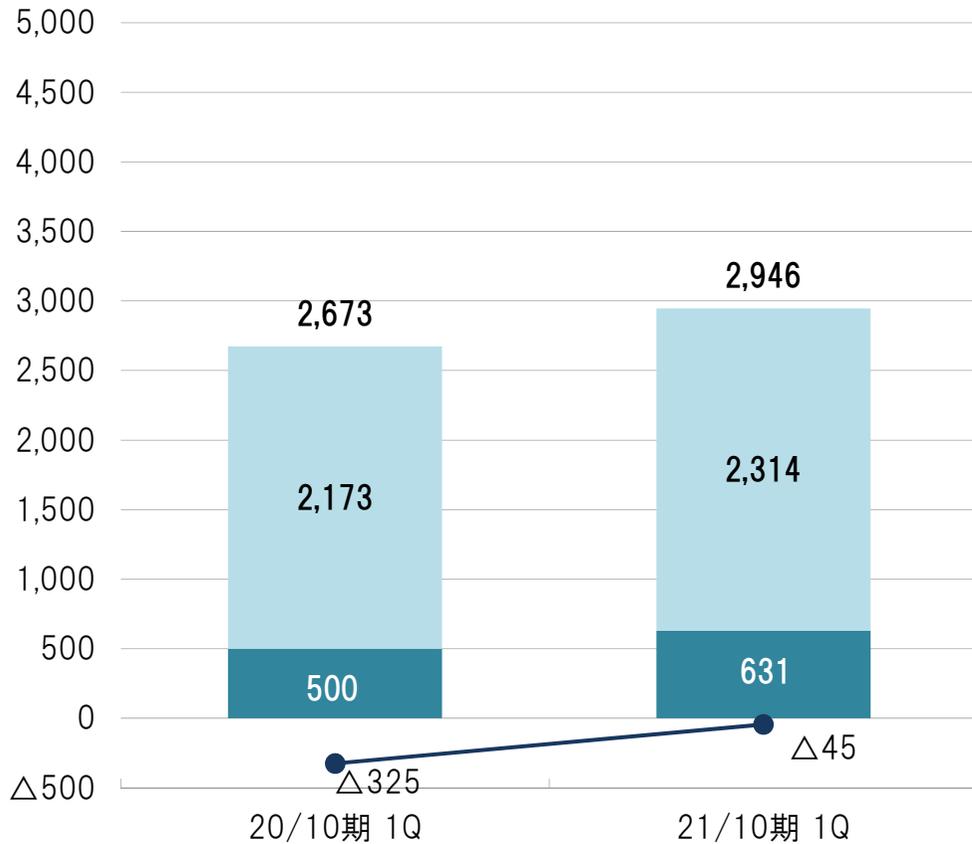
※20/10期のセグメント利益は遡及修正しております

Copyright© 2021 OHARA INC. All Rights Reserved.

1Q対比

光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

(単位:百万円)

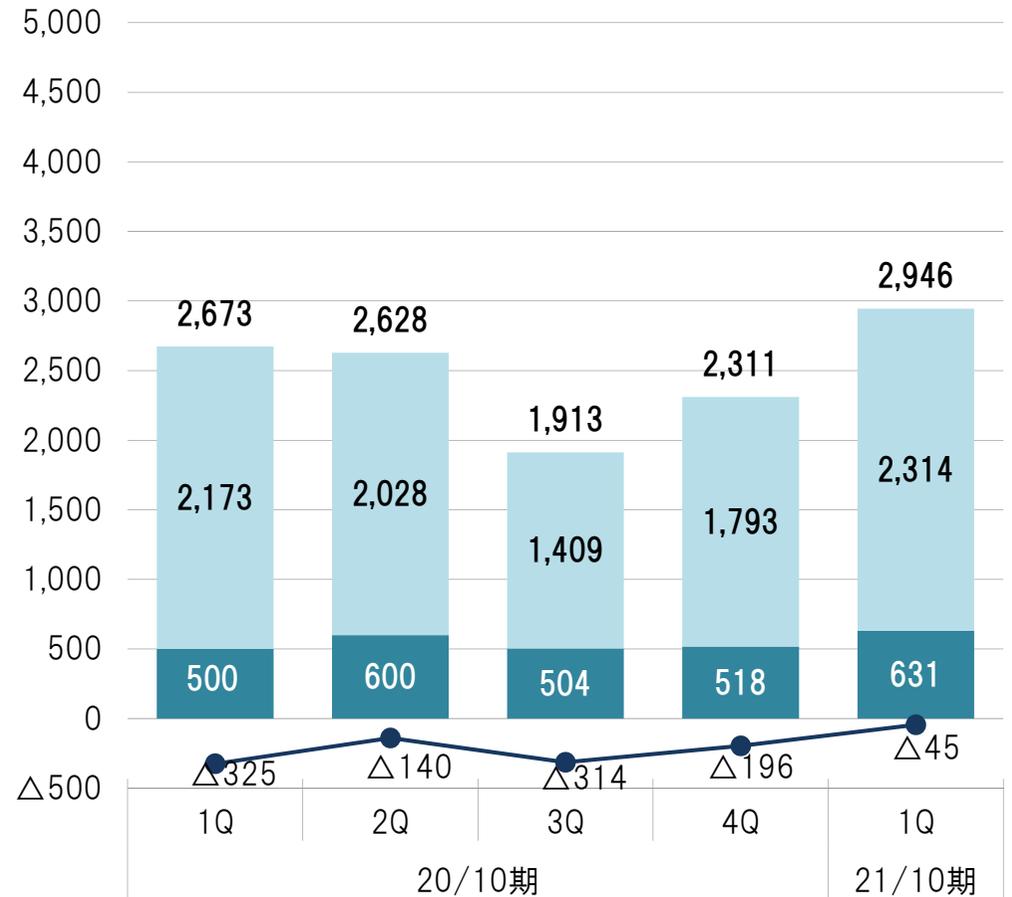


※20/10期のセグメント利益は遡及修正しております

四半期推移

光学プレス品売上高 光学ブロック品売上高 営業利益

(単位:百万円)

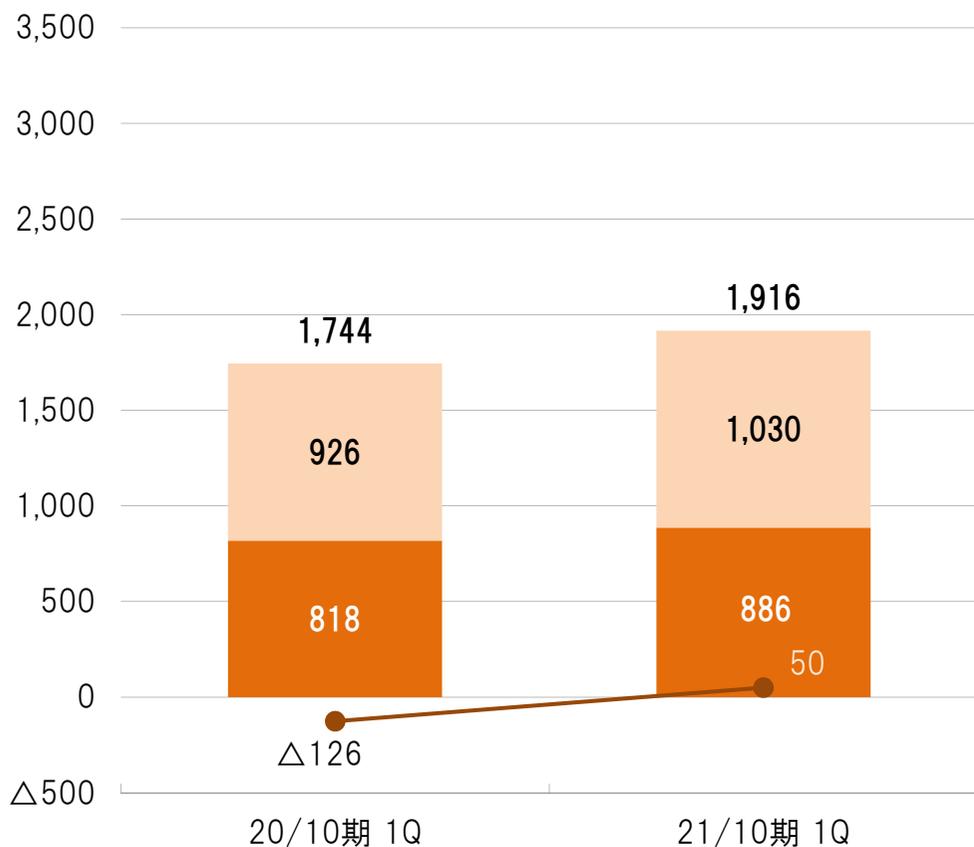


※20/10期のセグメント利益は遡及修正しております

1Q対比

特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益

(単位:百万円)

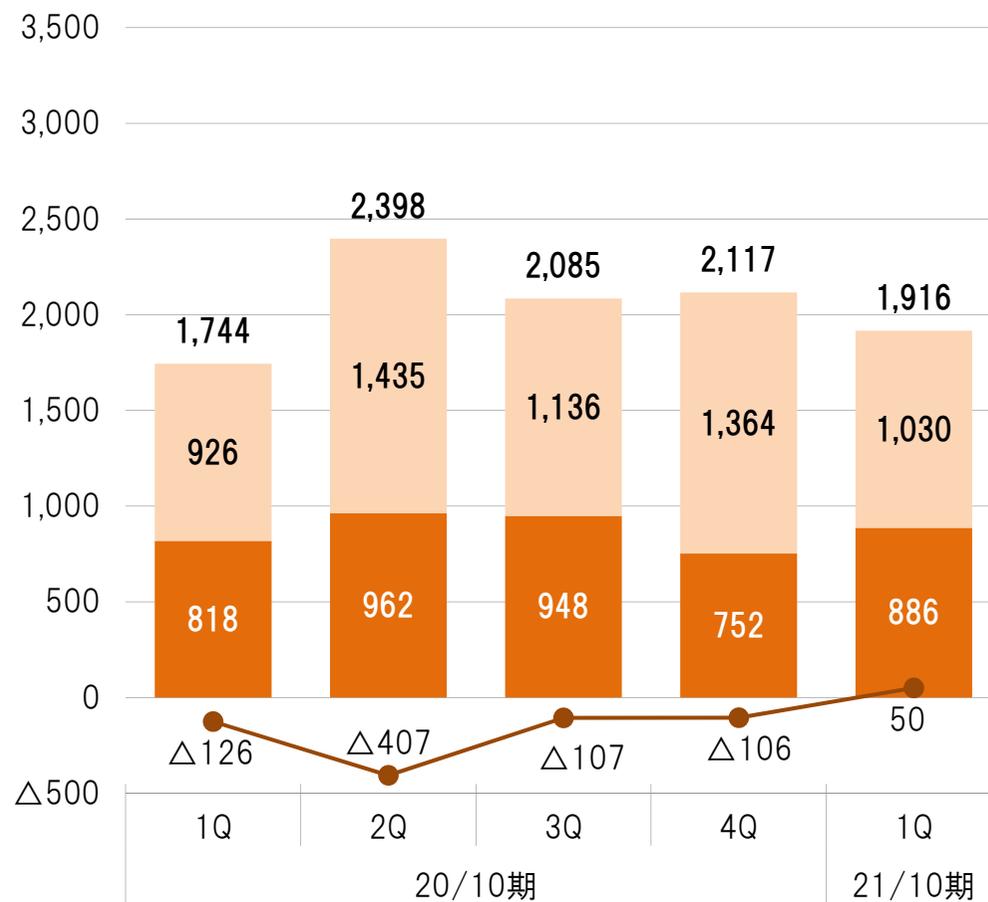


※20/10期のセグメント利益は遡及修正しております

四半期推移

特殊ガラス売上高 石英ガラス売上高 営業利益

(単位:百万円)

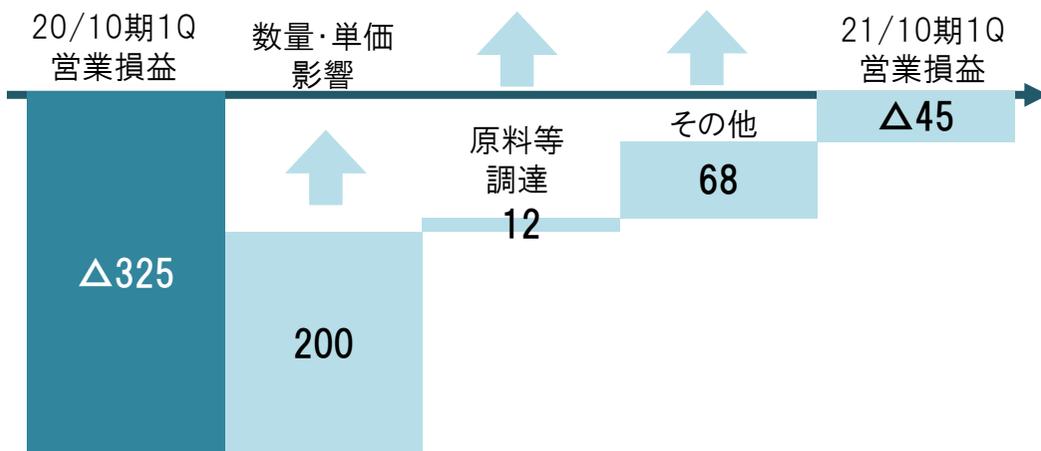


※20/10期のセグメント利益は遡及修正しております

営業損益増減要因

光事業

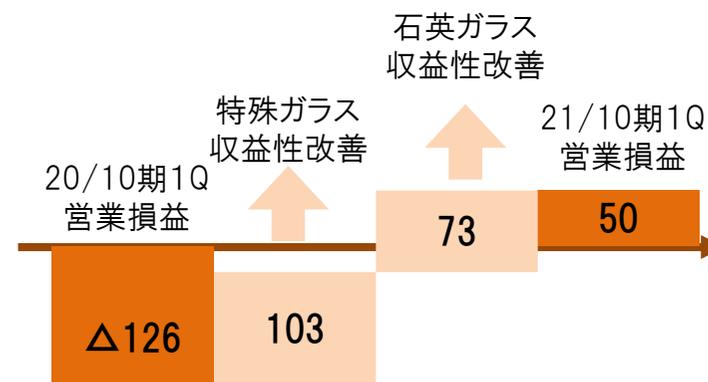
(単位:百万円)



※20/10期のセグメント利益は遡及修正しております

エレクトロニクス事業

(単位:百万円)



※20/10期のセグメント利益は遡及修正しております

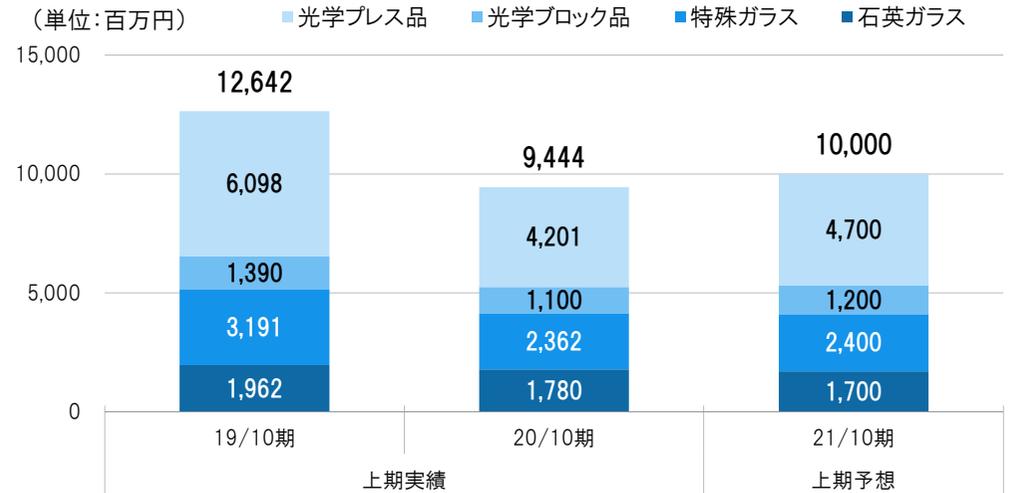
2021年10月期 業績見通し

上期見通しサマリー(3月12日修正)

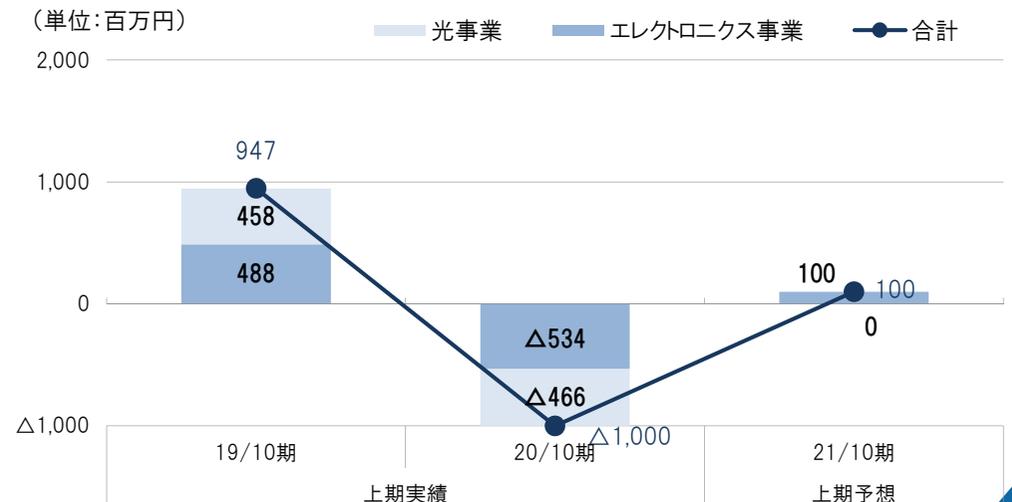
(単位:百万円、%)

	20/10期 上期	21/10期 上期予想	増減 増減率	21/10期 当初予想
売上高	9,444	10,000	555 5.9%	9,400
営業利益	△1,000	100	1,100	0
[営業利益率]	△10.6%	1.0%	—%	—
経常利益	△897	200	1,097	100
[経常利益率]	△9.5%	2.0%	—%	1.1%
純利益 (親会社株主に帰属)	△1,134	100	1,234	100
[純利益率]	△12.0%	1.0%	—%	1.1%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 108.80 119.87	期中平均 105.00 125.00		

売上高内訳



営業利益内訳



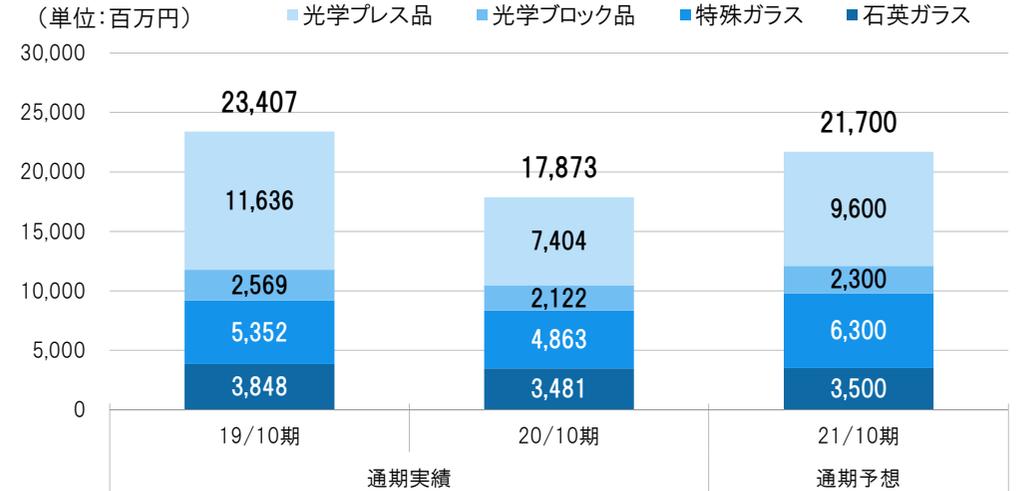
※20/10期のセグメント利益は遡及修正しております

Copyright© 2021 OHARA INC. All Rights Reserved.

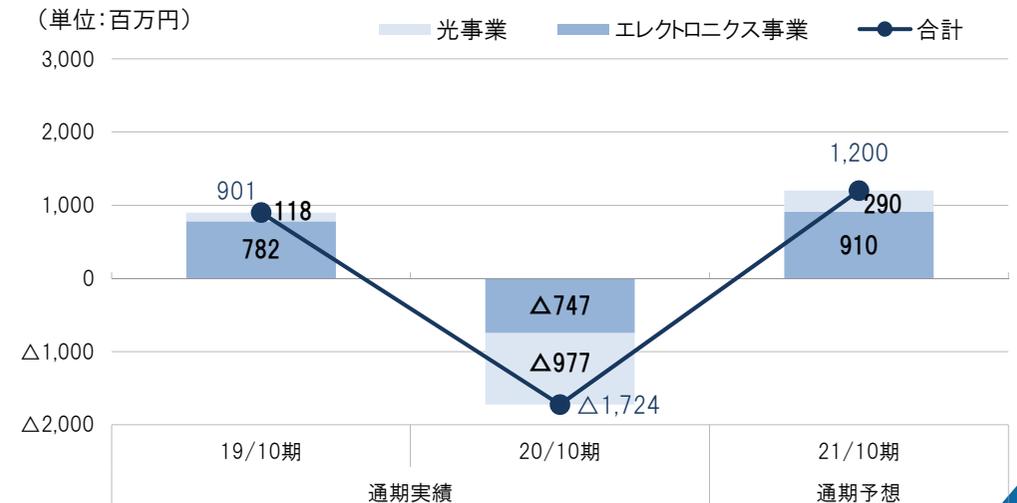
(単位:百万円、%)

	20/10期 通期実績	21/10期 通期予想	増減 増減率
売上高	17,873	21,700	3,826 21.4%
営業利益	△1,724	1,200	2,924
[営業利益率]	△9.6%	5.5%	—
経常利益	△1,319	1,300	2,619
[経常利益率]	△7.4%	6.0%	—
純利益 (親会社株主に帰属)	△4,243	600	4,843
[純利益率]	△23.7%	2.8%	—
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 107.61 121.18	期中平均 105.00 125.00	
年間配当金 (円)	10.00	10.00	

売上高内訳



営業利益内訳



※20/10期のセグメント利益は遡及修正しております

21/10期業績予想修正のまとめ

上期

(単位:百万円、%)

	期首予想 (20/12/15)	修正予想 (21/03/12)	増減額
売上高	9,400	10,000	600
光事業	5,300	5,900	600
光学プレス品	4,300	4,700	400
光学ブロック品	1,000	1,200	200
エレクトロニクス事業	4,100	4,100	0
特殊ガラス	2,650	2,400	△250
石英ガラス	1,450	1,700	250
営業利益	0	100	100
光事業	△120	0	120
エレクトロニクス事業	120	100	△20
経常利益	100	200	100
純利益(親会社株主に帰属)	100	100	0
為替レート 円/1USD	期中平均 105.00	期中平均 105.00	
円/1EUR	125.00	125.00	

通期

(単位:百万円、%)

	期首予想 (20/12/15)	修正予想 (21/03/12)	増減額
売上高	21,700	21,700	0
光事業	11,300	11,900	600
光学プレス品	9,200	9,600	400
光学ブロック品	2,100	2,300	200
エレクトロニクス事業	10,400	9,800	△600
特殊ガラス	7,300	6,300	△1,000
石英ガラス	3,100	3,500	400
営業利益	1,200	1,200	0
光事業	170	290	120
エレクトロニクス事業	1,030	910	△120
経常利益	1,300	1,300	0
純利益(親会社株主に帰属)	600	600	0
為替レート 円/1USD	期中平均 105.00	期中平均 105.00	
円/1EUR	125.00	125.00	
年間配当金(円)	10.00	10.00	

光学レンズ向け需要はコロナ後の反動もあり持ち直し傾向、成長市場での受注活動を継続

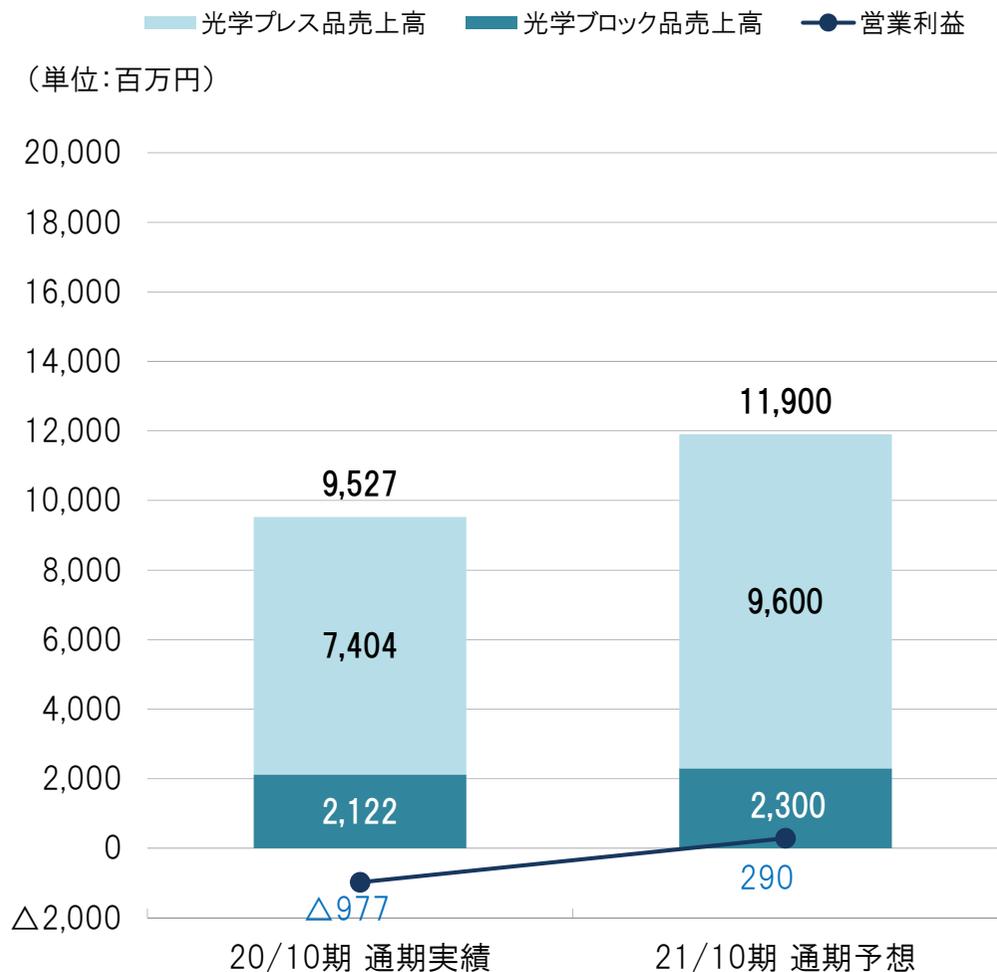
事業環境

- デジタルカメラ市場は、ミラーレスカメラを中心に市場の縮小に底打ち感が出ている
- 車載カメラなどの分野では、高精細化の進展により、品質の高い光学ガラスに対するニーズが高まる見込み

当社状況

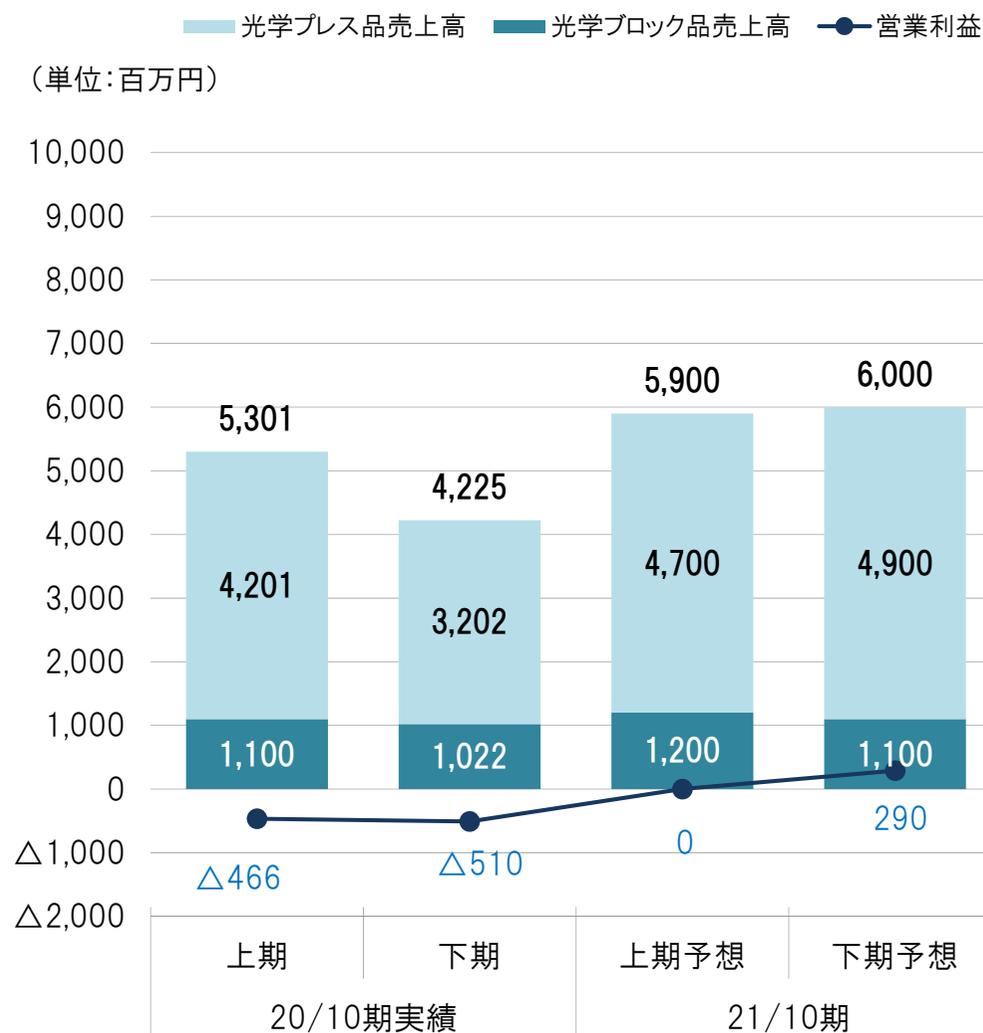
- デジタルカメラ向け光学ガラスの販売は、新型コロナウイルス感染症の影響により需要が急激に減少したものの緩やかに持ち直している
- 車載レンズ等の拡販を通してデジタルカメラ向け光学プレス品の減少を補う

通期対比



※20/10期のセグメント利益は遡及修正しております

半期推移



※20/10期のセグメント利益は遡及修正しております

FPD露光装置向け需要が回復傾向も、「ナノセラム™」は通期売上20億円から9億円へ引き下げ

事業環境

■露光装置市場

FPD向け及び半導体(i線ステッパー)向けは、堅調に推移する見込み

■光通信市場

第5世代移動通信システム(5G)の環境整備に向けた設備投資が進展する見込み

当社状況

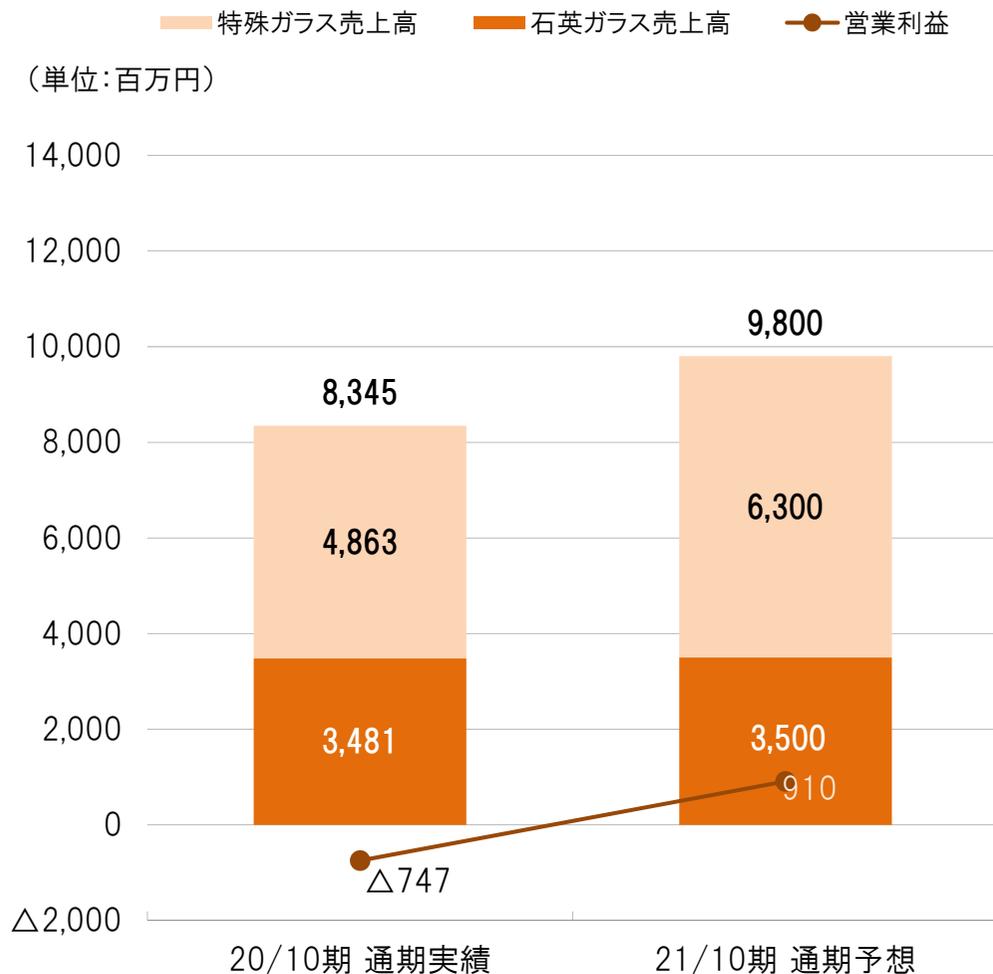
■「ナノセラム™」は、スマートフォン用途として、量産に向けた評価試験の一部で、想定していた結果が得られず進捗が遅延、先方と対応策を協議中。通期売上20億円から9億円へ引き下げ

■FPD露光装置向け極低膨張ガラスセラミックスの需要は堅調に推移する見込み

■半導体露光装置向け(i線向け)高均質ガラスの需要は21/10期1Qに一時的な納期調整があったものの、旺盛な半導体需要を受け下期に向けて堅調に推移する見込み

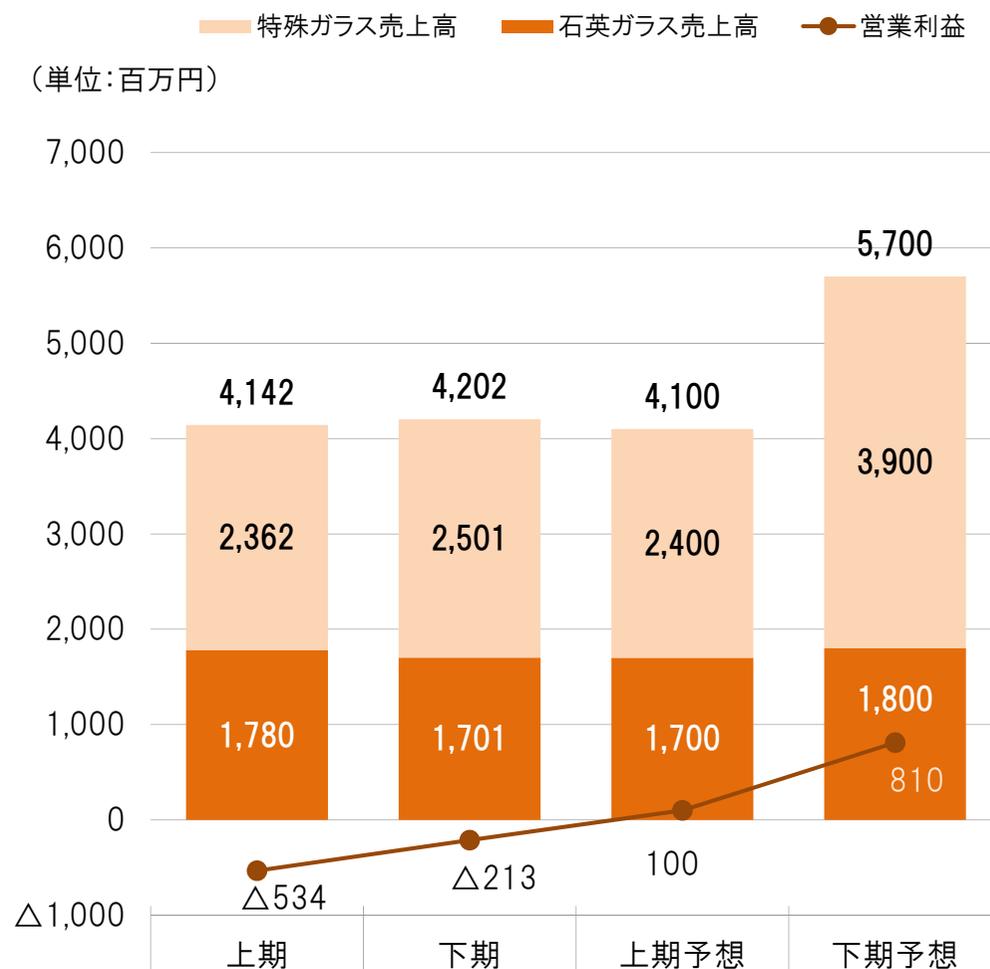
■光通信機器向けガラス素材「WMS™-15」の需要は、緩やかに増加する見込み

通期対比



※20/10期のセグメント利益は遡及修正しております

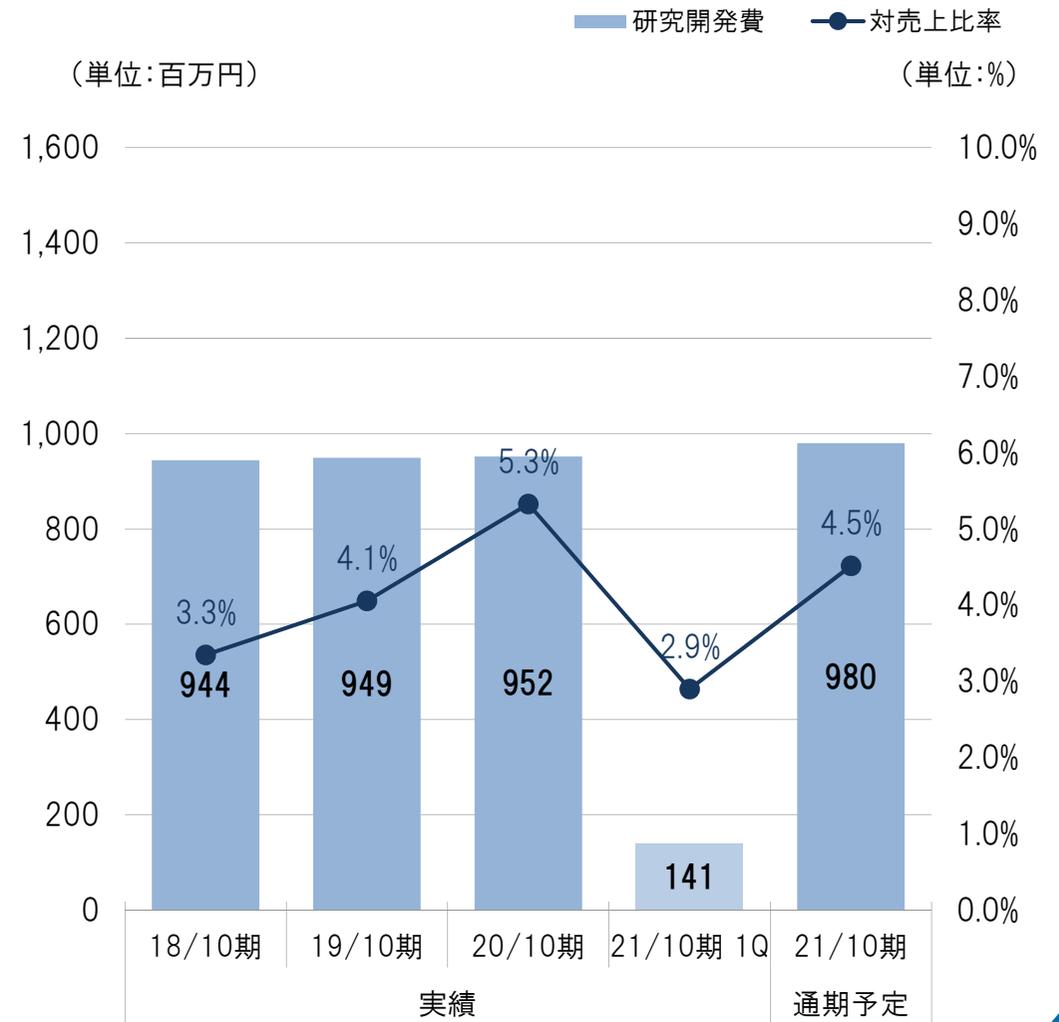
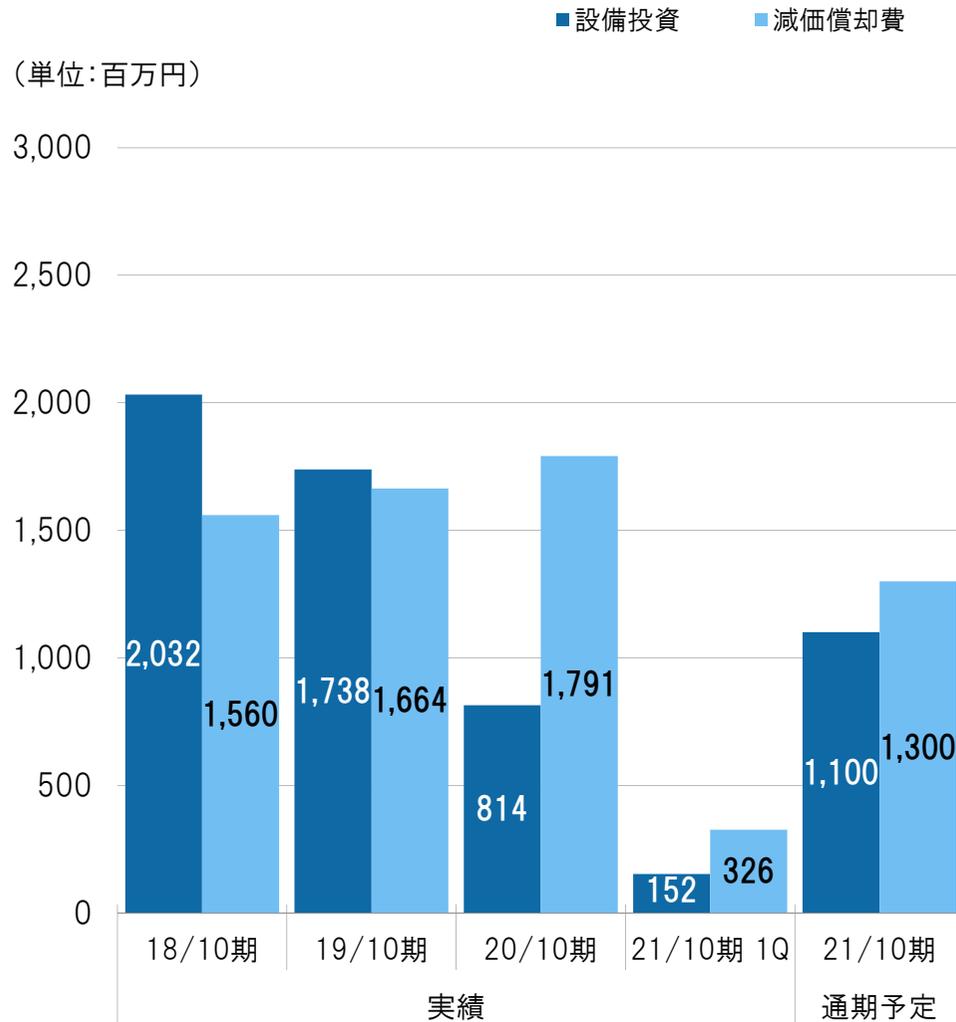
半期推移



20/10期実績 21/10期予想
 ※20/10期のセグメント利益は遡及修正しております

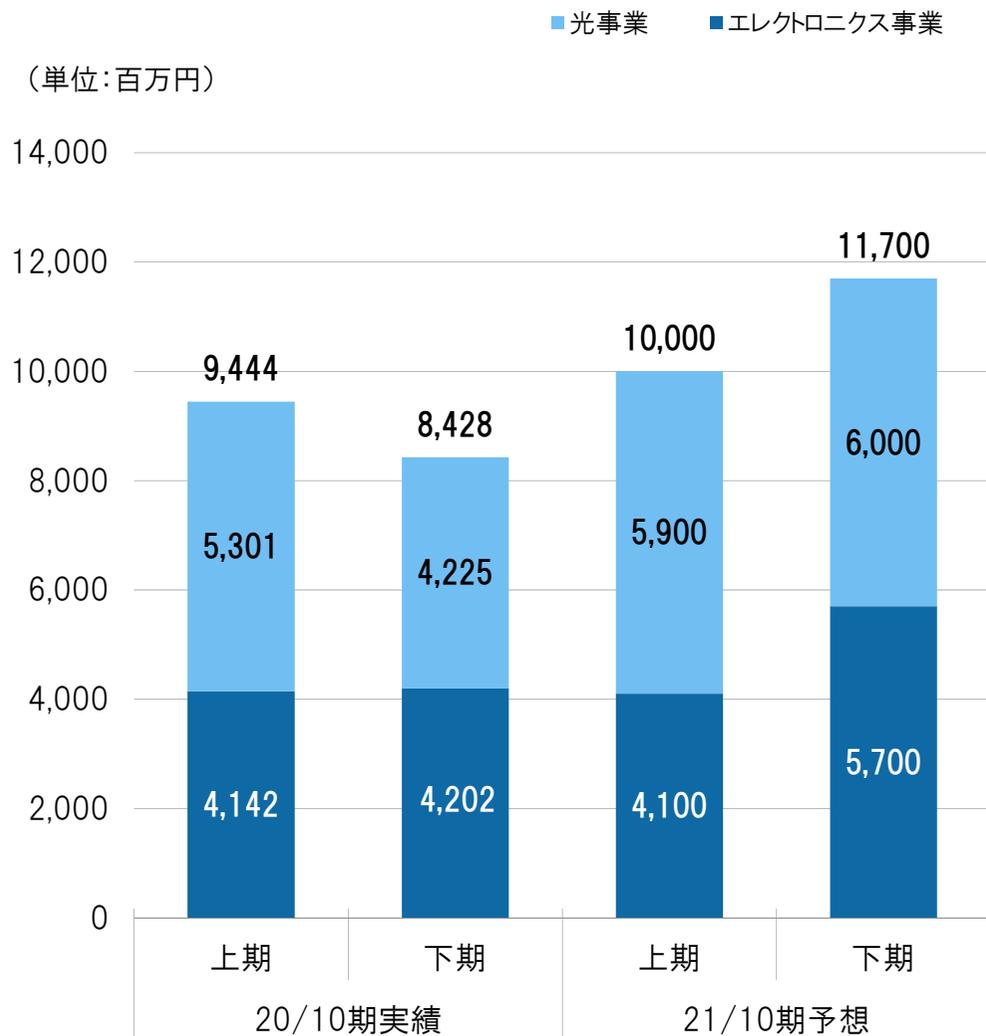
設備投資、減価償却費

研究開発費



Appendix(参考資料)

売上高



営業利益



商号：株式会社オハラ（OHARA INC.）
 所在地：神奈川県相模原市中央区小山1-15-30
 創立：1935年(昭和10年)10月1日
 資本金：58億5千5百万円
 事業内容：光及びエレクトロニクス事業機器向けガラス素材の製造、販売
 従業員：連結1,508名(単体439名) (2020年10月31日時点)
 発行済株式総数：25,450,000株
 株主数：8,344名 (2020年10月31日時点)



代表取締役社長執行役員
齋藤弘和

役員一覧

役名	氏名	職名
代表取締役社長執行役員	齋藤 弘和	経営全般
取締役専務執行役員	中島 隆	コーポレート統括
取締役常務執行役員	青木 哲也	事業部統括(営業・マーケティング統括)
取締役常務執行役員	後藤 直雪	生産、技術統括兼材料生産センター長
取締役(社外)	市村 誠	
取締役(社外)	戸倉 剛	
取締役(社外)	軒名 彰	
取締役(社外)	牧野 友香子	
常勤監査役	原田 洋宏	
監査役(社外)	高木 晴彦	
監査役(社外)	長島 和彦	
監査役(社外)	飯塚 良成	

大株主

(2020年10月31日時点)

	株主名	持株数 (千株)	持株比率
1	セイコーホールディングス(株)	4,702	19.3%
2	キヤノン(株)	4,694	19.3%
3	京橋起業(株)	4,688	19.3%
4	三光起業(株)	1,651	6.8%
5	(株)トプコン	673	2.8%
6	セイコーインスツル(株)	610	2.5%
7	日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	421	1.7%
8	オリンパス(株)	400	1.6%
9	株式会社日本カステディー銀行(信託口)	281	1.2%
10	株式会社日本カステディー銀行(信託口5)	164	0.7%

※持株比率は、自己株式1,110千株(株式給付信託保有分含む)を控除して計算

中国
小原光学(中山)有限公司 華光小原光学材料(襄陽)有限公司



日本
(株)オハラ



(株)オハラ・クオーツ



(株)オーピーシー



米国
Ohara Corporation



ドイツ
OHARA GmbH



香港
小原光學(香港)有限公司



マレーシア
OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.



台湾
台灣小原光學股份有限公司 台灣小原光學材料股份有限公司



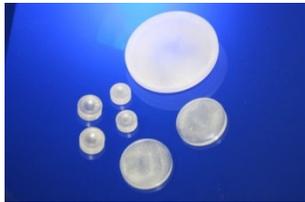
- 1935 10月：小原甚八が小原光学硝子製造所を創立、東京蒲田にて操業開始
- 1936 11月：光学ガラス熔解開始
- 1944 2月：株式会社に改組、神奈川県相模原に工場を新設
- 1954 5月：白金坩堝熔解開始
- 1958 4月：ランタンガラス生産開始
- 1961 1月：連続熔解ストリップ方式生産開始
- 1962 10月：足柄光学株式会社の株式取得
- 1969 7月：オハラガラス、アポロ11号に搭載
- 1975 8月：低屈折低分散ガラス(S-FPL51)生産開始
- 1981 8月：Ohara Optical Glass Inc.(米国)(現・Ohara Corporation)設立
- 1982 3月：オハラガラス、スペースシャトル・コロンビア号に搭載
- 1983 3月：ステッパ用ハイホモガラス($\Delta n_d \pm 0.5 \sim \pm 1.0 \times 10^{-6}$)量産開始
- 1984 3月：高エネルギー物理学研究所へチェレンコフガラス納入開始
- 1985 5月：株式会社オハラに社名変更
- 1986 9月：台湾小原光学股份有限公司設立
- 1987 3月：紫外線(365nm)高透過ガラス生産開始
5月：有限会社オーピーシー(現・株式会社オーピーシー)設立
- 1988 8月：結晶化ガラス生産開始
- 1990 1月：OHARA GmbH(ドイツ)設立
- 1991 9月：環境対策光学ガラス生産開始
11月：OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.(マレーシア)設立
- 1993 3月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)生産開始
- 1994 11月：ハードディスク基板用ガラスセラミックス生産開始
- 1997 3月：光学ガラス推奨112種類(当時)のすべてをエコ化
- 1998 4月：ISO9001認証取得
- 1999 1月：オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラSCに搭載
- 2000 1月：低光弾性ガラス生産開始
4月：ISO14001認証取得
10月：真空紫外域屈折率測定受託サービス開始
- 2002 5月：小原光学(香港)有限公司設立
6月：大規模連続熔解開始
12月：小原光学(中山)有限公司(中国)設立
- 2005 10月：東京証券取引所第一部へ株式上場
- 2006 11月：ファイバー用エコガラス(内視鏡用など)生産開始
- 2007 2月：低蛍光ガラス(顕微鏡用など)生産開始
9月：オハラガラス、月周回衛星「かぐや(SELENE)」に搭載
- 2008 7月：株式会社オハラ・クオーツを連結子会社化
- 2011 3月：華光小原光学材料(襄陽)有限公司(中国)設立(合併)
- 2012 3月：台湾小原光学材料股份有限公司設立
8月：オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラHSCに搭載
- 2013 5月：リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)発売開始
- 2014 2月：ハードディスク用ガラス基板事業からの撤退
3月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、TMT天体望遠鏡に採用
- 2015 3月：非球面ガラスモールドレンズ量産供給開始
12月：耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)発売開始
- 2016 8月：リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)を使用した全固体電池試作品が-30℃で駆動
- 2017 5月：世界初、車載カメラ専用光学ガラス材発売開始
12月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、超低高度衛星技術試験機「つばめ(SLATS)」に採用
- 2018 6月：NEDO先進・革新蓄電池材料評価技術開発(第2期)へ参加
8月：非球面ガラスモールドレンズ新工場稼働開始
- 2019 1月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、キヤノン電子の超小型人工衛星初号機に採用
2月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、国内最大の望遠鏡「せいめい」に採用
3月：足柄光学株式会社を解散
- 2019 1月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、キヤノン電子の超小型人工衛星初号機に採用
- 2020 3月：オハラの固体添加材「LICGC™ PW-01」によりリチウムイオン電池の寿命が4倍長持ち

主要製品

製品カテゴリ

光学プレス品

レンズブランク



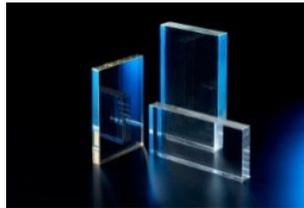
研磨プリフォーム (レンズ加工品)



ガラスモールドレンズ (GMO)

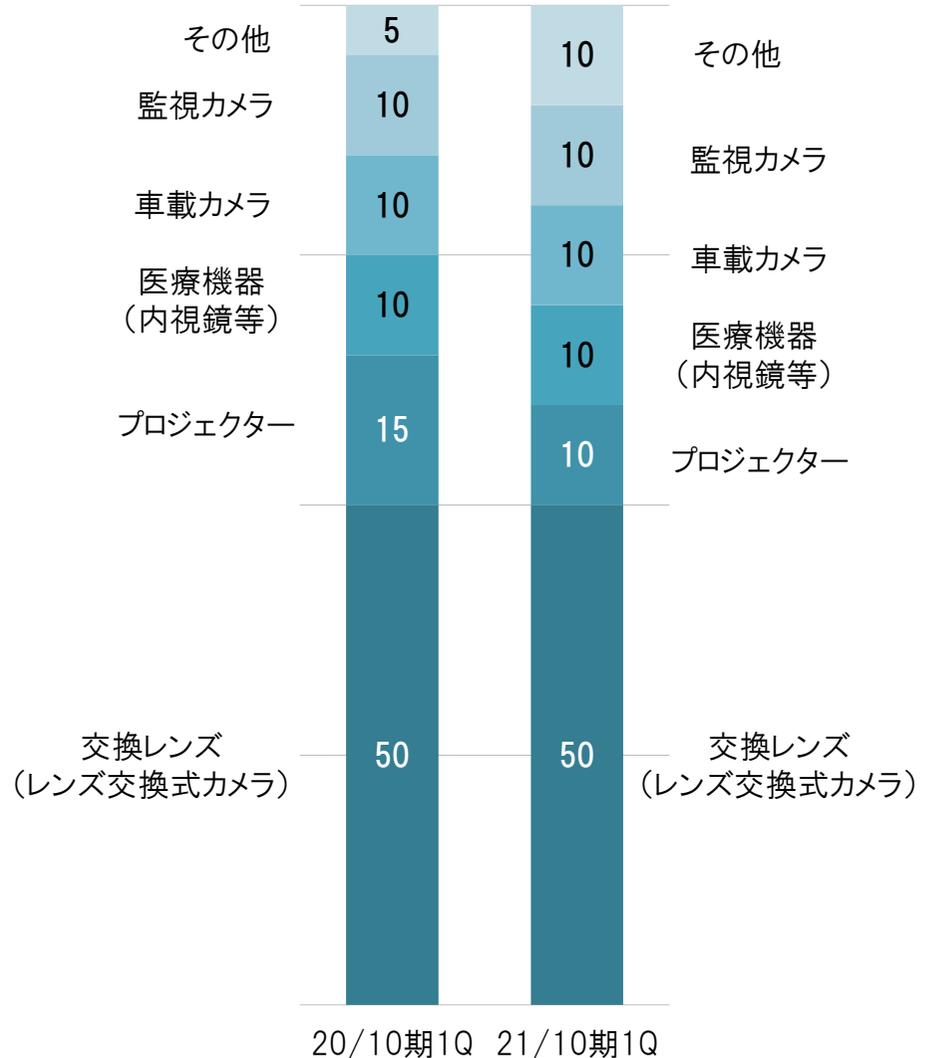


光学ブロック品



※光学ガラスを納品形態により分類。組成の種類(硝種)は約150種

売上高の用途別比率 (単位:%) ※当社想定

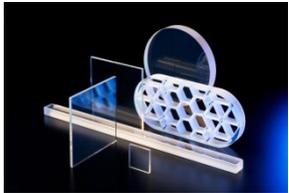


主要製品

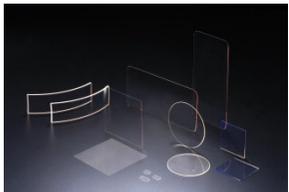
製品カテゴリ

特殊ガラス

極低膨張ガラスセラミックス
クリアセラム™-Z



耐衝撃・高硬度
クリアガラスセラミックス
ナノセラム™



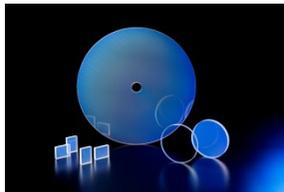
リチウムイオン伝導性
ガラスセラミックス
LICGC™



線用高均質性
光学ガラス



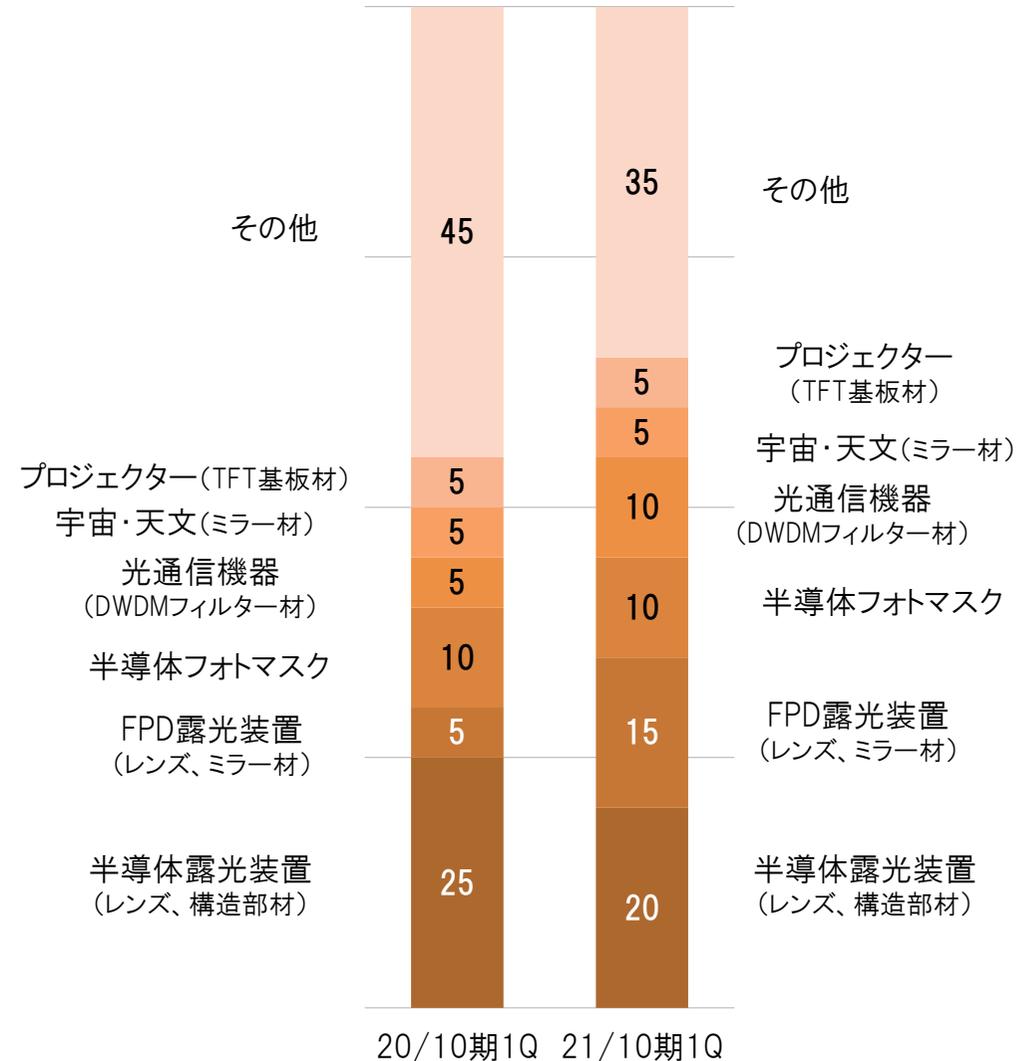
光通信機器向け
ガラス素材
WMST™-15



石英ガラス



売上高の用途別比率 (単位:%) ※当社想定



光学ガラスの代表的な製造工程



経営理念

オハラグループは、常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。

コーポレート・メッセージ

ブランドスローガン

ひかる素材で、未来をひらく

オハラが願う
未来・社会の姿

安心で快適な生活。
創造と希望にあふれた社会。
健やかな地球。

オハラの
使命

いつの時代も新たな素材の可能性を追求し、
多様なパートナーとともにかたちにするので、
「生活・文化の向上」「フロンティア開拓」「地球環境の改善」に貢献する。

オハラの提供価値

ひかる素材で、お客様の「できる」につなげる。

価値観・姿勢

真摯に向き合う
妥協なきものづくり
挑戦のグッドサイクルを回す
All OHARAでいく
互いに認め合い、成長しよう

ひかる素材で、未来をひらく

OHARA

- ◆ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ◆ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ◆ この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。